

社会科（地理的分野）学習指導案

1 単元名 「日本の諸地域 中部地方」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の社会科地理的分野「(3) 日本の諸地域 ③産業を中核とした考察の仕方」に対応し、地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象と関連付け、産業が地域の自然環境や交通・通信などと深い関係をもっていることことや、産業の振興と環境保全の両立などについて考察することで中部地方の地域的特色に迫れるよう構成した。

中部地域は、その中央部に標高 3,000m を超える山岳地域が形成され、そこから県境をまたぐ流域を持つ規模の大きな河川(木曾川、天竜川、神通川、信濃川など)を含む、大小多数の河川が日本海側及び太平洋側に流域を分けて流れている。海域から高山までの大きな標高差とそれに応じた多様な自然環境を擁する地域である。山岳地域の間には盆地が連なり、海に面した河川下流部には濃尾平野、砺波平野などの沖積平野が存在し、これらの平地には大小の都市が形成されている。また、日本海側には能登半島、太平洋側には伊豆半島と比較的規模の大きな半島が存在し、それぞれが富山湾・駿河湾を形成している。さらに 志摩・知多・渥美の各半島はそれぞれ対になって伊勢湾・三河湾を形成している。これらの各湾は中部地域の豊かな水産資源の源となっている。

年平均気温は、静岡県が 16.0℃以上と最も高く、愛知県、岐阜県でも 15.4~15.5℃と温暖な気象条件となっている。一方で長野県長野市、松本市などの中部・北部では 12℃以下になっており、標高の高い内陸地域では平均気温が低くなっている。また、真夏日の日数は、岐阜市と名古屋市で 50 日を超えるなど温暖な気候でかつ都市が集中する地域となっている。年間降水量は、太平洋側の地域が年間を通じて降水量が多くなっている。また、冬季に日本海から流れる雲と中部内陸部の標高の高い山岳の影響で多量の積雪のある北陸地方は約 2,200mm と年間降水量が多くなっている。一方、長野県長野市・松本市では約 1,000mm 程度となっている。このように、中部地域の気象は、太平洋沿岸部で高温多湿の温暖な海洋性気候、長野県などの内陸部では寒暖の差が激しく降水量の少ない内陸性気候、北陸では冬季に曇天が続き、多量の積雪となる日本海沿岸の気候となっている。

産業については、域内総生産額は、愛知県が約 35 兆円と突出して高く、静岡県で約 16 兆円、その他の県では 1 兆円未満と、中部地域の産業生産規模は愛知県が大きなシェアを占めている。中部地方の産業構造は、概ね製造業の比率が高く、ものづくり産業が盛んとなっている。特に富山県、静岡県、愛知県は製造業の生産額の割合が 30%以上を占めており、全国的にみても製造業の比重が高い産業構造となっている。工業出荷額では愛知県が約 39 兆 5 千億円と突出して高く、その全国シェアも 13.4%と人口比に比べて高くなっており、日本の製造業の拠点となっている。各県の上位業種をみると、愛知県、静岡県は「輸送機械器具」、長野県は「電子部品・デバイス」と「情報通信機械」、北陸地域では、富山県で「化学工業」、石川県で「一般機械器具」が多くなっている。

農業産出額では、愛知県が約 3 千億円と最も多く、静岡県と長野県が約 2 千億円と続いており、愛知県、静岡県では工業だけではなく農業生産も盛んである。特に畜産(肉用牛、養豚、養鶏等)や野菜、電照菊などの生花の栽培が盛んな渥美半島は日本を代表する農業地域となっている。また、果樹(みか

ん等)、工芸農作物(茶等)、野菜などの生産の盛んな静岡県浜松市などでも農業総産出額が高くなっており、温暖な気候を生かした近郊園芸農業など行われている。また、長野県においては、夏季でも涼しい気候を生かした高原野菜の栽培が盛んであり、周辺の主要都市や東京などの大都市圏へ向け、高付加価値の野菜を出荷している。北陸地方は広大な平野と豊かな水源を生かし、日本の代表的な穀倉地帯となっている。また、積雪による冬場の農閑期を支える伝統工芸が盛んで、近年は、先端技術への応用や海外への輸出など新たな取組が進んでいる。これらの産業を成り立たせている中部地方の地理的事象について産業を中核にして自然的条件・環境条件や人々の営みや工夫と結び付けて追究させられるように単元を構成する。

交通の面に焦点を当てると、中部地方は歴史的にも日本の交通の要所となっていた。江戸時代には東海道、甲州街道、中山道と三つの大きな街道が通り多くの宿場町が形成された。北陸地方は西廻り航路が発達したことにより、東北地方から様々な物品を運ぶ北前船の寄港地として発展した地域が見られる。現在では、鉄道は主に東西を結ぶ東海道本線・東海道新幹線のほか北陸本線や信越本線など域内を南北に結ぶ交通網が整備されている。高速道路については、「太平洋沿岸及び、内陸部の盆地をそれぞれ結ぶ、東名高速、北陸自動車道、中央自動車道などに加えて、南北方向の交通ネットワークも進められた。また、愛知県には第一種空港である中部国際空港が位置しており、東海地方の中心都市となっている。これらの交通網の発展が域内、その他の地域を結び、貨物流動が活発に行われる背景となっている。これらの要因から、中部地方は3つの地域の気候や自然環境、地域ごとに発展した文化や自動車産業をはじめとする第2次産業、地域の特色に合わせた農業といった各種産業を見取ることができる。また、交通網の整備から東京、大阪に次ぐ愛知県を中心とした三大都市圏の形成と人口集中など様々な視点から地域的特色を捉えることができる。よって日本の諸地域の学習の第一時で扱う地域として望ましいと考える。

第1時は7つの日本の地域の学習を始めるにあたり、各地域を自然、人口、都市・人口、産業、交通・通信、生活・文化の5つの視点からとらえるための導入とする。中部地方のそれぞれの県の観光PRキャラクターやご当地キャラクターを扱い、それぞれの県や市町村のキャラクターが何をモチーフとしているのかと何をPRしようとしているのかを予想する。班ごとに付箋にキャラクターの特徴を書き出してそのキャラクターの情報をまとめる。キャラクターの情報を全体で共有し、そのキャラクターに含まれる要素が5つの視点のどれに当てはまるのかを分類する。中部地方の3つの地域区分や自然や気候を背景として様々な産業が発展したことに気付かせたい。

第2時では、中部地方の白地図を用いて、中部地方の地形、気候、農業、工業の分野を4人一班でそれぞれが分担して主題図を作成する。中部地方が太平洋と日本海に挟まれ、列島の中央部に険しい山々が位置するという日本列島の特徴から3つの地域で構成されていることについて確認する。また、その特徴から3つの気候に大別できることを確認する。

第3時は、自動車を中心とした輸送機械工業がさかんな東海地方でさかんな理由を複数の視点で考える。トヨタやヤマハなどの企業に焦点を当て、発展して生きた背景や豊田市や浜松市の立地や交通面など自動車製造という工業形態の特徴に触れてどのような条件があるのかを理解させる。また、九州や広島など自動車産業がさかんな地域について共通点や相違点があるのかを比較させる。

第4時では、北陸地方の稲作と伝統産業がさかんな理由を考察させる。繊維工業や漆器、鋳物などが江戸時代から藩の奨励を受けて発展してきた。明治の時代になってもこれらの工芸品や美術品は外

貨獲得のために用いられた。その後、日用品鋳物産業が部品鋳造やアルミ加工産業などへと形を変えて現代まで発展してきた。これらの工芸品が北陸地方の冬季多雪の気候で農業の副業として発展したことを諸資料から考えさせる。

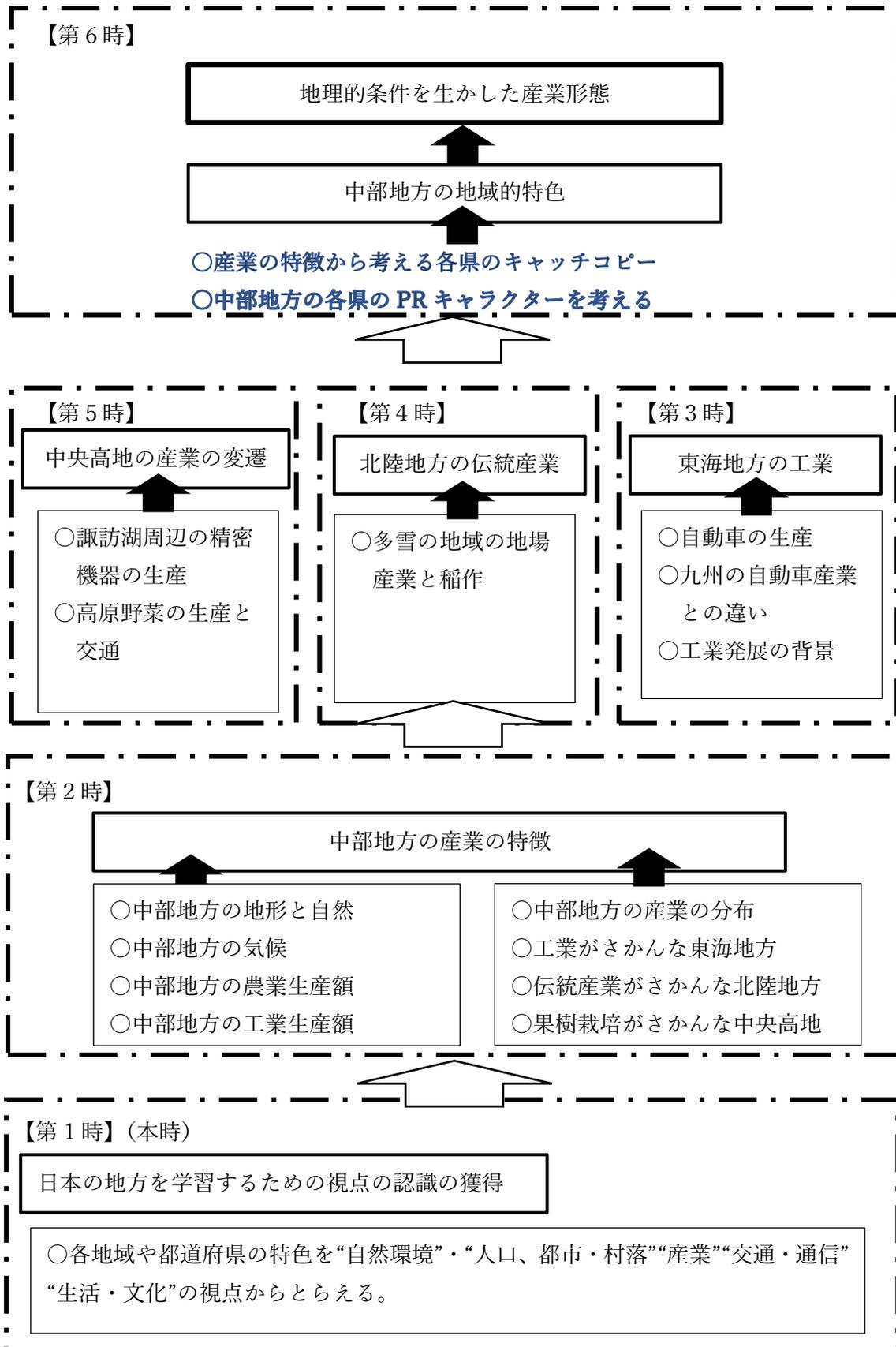
第5時では、中央高地の農業と精密機器製造業について取り上げる。内陸で標高の高い中央高地は本来農業に不向きだが大消費地に近いことを生かしたレタスや白菜の葉物野菜の栽培などを地図や気候条件などから考えさせる。また、現在の果樹園が過去に桑畑だった地域があることに新旧の地形図を用いて製糸業が盛んだったことに気づかせたい。製糸業が機械化し、その後、諏訪湖周辺で精密機械工業が盛んになったことから、時代の変化によって産業が変化したことを理解させる。

第6時では、学習のまとめとして中部地方の各県のオリジナルキャラクターとキャッチコピーを考えて、中部地方の地域的特色を理解させたい。これまで学習した東海地方、北陸地方、中央高地の3つの地域の産業の特徴から地理的条件の変化によって形を変えた産業やそこで生活する人々の努力や気候を生かした産業についてまとめる。

3 単元の目標

- (1) 中部地方の自然、産業、歴史的背景などの特色についてグラフや資料などを用いて読み取り、理解することができる。 【知識・技能】
- (2) 中部地方の自然、歴史、交通などから、特徴的な産業が発展した背景について考察し、特色を適切に表現することができる。 【思考・表現・判断】
- (3) 中部地方の様々な特色に関心をもち、全国的にも盛んな産業について自然環境や交通・通信などの諸条件を関連させながら意欲的に追及することができる。 【学びに向かう力、人間性】

4 思考の深化に対応した指導計画



5 本時

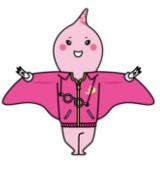
(1) 本時の目標

地域の特徴を捉える視点に関心を持ち、日本の諸地域の学習に対する見通しを持つようとしている。
【学びに向かう力、人間性】

(2) 本時の「主体的な学び」

【中部地方のキャラクター】

中部地方の9県の県や都市の観光PRキャラクター“ゆるキャラ”、“ご当地キャラ”からそのキャラクターが何をモチーフとしているのかを調べて特徴を書き出す。

ひやくまんさん	ほもみん	さばにゃん	あるくま	こめつくぐん
				
石川県	岐阜県	福井県	長野県	新潟県
能登町PRキャラクターのっとりん	もとまる	さとりゅう	アルプちゃん	よいたん
				
石川県	岐阜県	福井県	長野県	新潟県
出世大名家康くん	なるシカくん	せとちゃん	元気とやまマスコット きときとくん	
				
静岡県	山梨県	愛知県	富山県	
さかべっち	ブードくん・モモンちゃん	井之助	ジャンボヘル三世	
				
静岡県	山梨県	愛知県	富山県	

9つの班がそれぞれの県のキャラクターについてその特徴からモチーフにしているものやPRしていることをタブレットで調べてワークシートに記入し、付箋を使って模造紙にまとめていく。

- (3) 本時の「対話的な学び」
各班が調べたキャラクターについて“自然環境”“人口、都市・村落”“産業”“交通・通信”“生活・文化”の5つの視点のどれに当てはまるかを考えて色ごとに分類していく。分類した結果から中部地方にはどのような視点で地域的特色をとらえていくのが良いのかを検討する。

●地域の特色をとらえる視点

自然環境

山、川、海、火山、気温、降水量、積雪量、
土壌、自然災害と防災、公害、環境保全に向けた取り組み、リサイクル

人口、
都市・村落

人口の増加と減少、人口の分布や移動、過疎・過密、少子化、高齢化、都市や村落の立地、都市の拡大、町おこし・村おこし

産業

農業、林業、水産業、工業、原料の仕入れ先と商品の出荷先、第三次産業、観光産業、産業の発展と環境保全

交通・通信

高速道路などの道路網、鉄道、新幹線、空港、海上交通、通勤・通学、商品の輸送、貿易、情報通信網、通信機器の普及

生活・文化

伝統行事の継承、郷土料理、家屋、伝統的工芸品、街並みなどの景観の保存、教訓の伝承、伝統の現代的な変化

(4) 本時の展開【第1時】

過程	学習内容と活動	留意点(○)及び評価(◇)
導入 5分	<p>○ご当地キャラクターについて知る。 ○そのキャラクターが何をPRするものなのかモチーフは何かを考える。 成田市観光キャラクター「うなりくん」は何をPRするキャラクターなのかを考える。 ○同様に中部地方のご当地キャラクターを見てどこの地方なのかを予想する。</p> 	<p>○千葉県のご当地キャラクターを例にあげ、生徒に身近なものを扱う。</p>  <p>○複数の要素をデザインに取り入れているキャラクターだということに気付かせる。 ○愛知県の「おけわんこ」と静岡県の「やいちゃん」提示してどこの地方のものか予想させる。</p>

	<p>ゆるキャラで謎解き！④⑤地方の特色をつかもう</p>	<p>○学習課題を提示する。</p>										
<p>展開 ① 20分</p>	<p>○中部地方の9つの県の18のゆるキャラ、ご当地キャラクター、観光PRキャラクターについてモチーフやPRしているものを班で調べて模造紙とワークシートにまとめる</p> <p>ワークシートと模造紙に18のキャラクターの特徴をまとめよう</p>	<p>○ワークシートを配布して、学習班ごとにキャラクターが印刷された模造紙と付箋を配布する。</p> <p>◇中部地方の産業の特徴について意欲的に追及することができる。</p> <p>○全てのキャラクターについて調べられなくてもよいことを伝える。</p>										
<p>展開 ② 20分</p>	<p>○各地域を学習する際の5つの視点について確認する。 「自然環境」 「人口、都市・人口」 「産業」 「交通・通信」 「生活・文化」</p> <p>キャラクターの特徴を5つの視点でとらえて分類しよう</p> <p>○模造紙に貼ったキャラクターの付箋を地域の特色をとらえる視点の用紙に分類して貼る。</p> <table border="1" data-bbox="263 1153 810 1639"> <tr> <td>自然環境</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人口、都市・村落</td> <td></td> </tr> <tr> <td>産業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交通・通信</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生活・文化</td> <td></td> </tr> </table> <p>○各キャラクターの特徴が「産業」の分野に多くが集中することを確認する。</p> <p>○中部地方が農業や製造業などの産業が盛んなのかを地図帳の統計を使って確認する。</p>	自然環境		人口、都市・村落		産業		交通・通信		生活・文化		<p>○教科書p184の「地域の特色をとらえる視点」を提示してそれぞれの視点について説明する。</p> <p>○各班の分類した用紙を黒板に掲示して全体で共有する。</p> <p>○中部地方のキャラクターが「産業」についての特徴を持つものが多いことに気付かせる</p> <p>○一つの班の用紙から産業を農業や漁業、観光産業などさらに細分化してどのような産業があるのかを確認する。</p> <p>○地図帳の都道府県別の統計のページから中部地方の産業について赤文字の箇所を確認させて盛んな産業を確認させる。</p>
自然環境												
人口、都市・村落												
産業												
交通・通信												
生活・文化												

	○メガネフレームやピアノなどの製品をモチーフとしているキャラクターがいることからその産業が盛んなのかを国内シェア率から確認する。	○中部地方には地場産業、伝統産業や高原野菜、果樹栽培が盛んなことに気付かせ、多様な産業が発展したことを気付かせる。
まとめ 5分	○中部地方を産業の視点で学んでいくことを確認する。 なぜ中部地方には個性豊かな産業が発展しているのだろうか ○振り返りシートを記入する。	○これから始まる日本の諸地域の学習シートを配布して学習の見通しを持たせる。 ◇振り返りシートの記入内容から今後の見通しを持たせたか確認する。

(5) 評価

評価規準	基準		
	A	B	C
中部地方について、様々な視点から特徴を捉え、主体的に追究しようとしている。	◇ワークシートの回収 振り返りシートの記入 各県のキャラクターの特徴をとらえ、その特徴から中部地方を学習する際の課題に対して予想したり、解決に役立ちそうな情報を上げたりするなど、今後の学習に見通しを持つようとしている。	◇ワークシートの回収 振り返りシートの記入 各県のキャラクターの特徴をとらえ、その特徴から中部地方の特色をとらえようとしている。	◇ワークシートの回収 振り返りシートの記入 キャラクターの特徴や分類がされていない

(6) 板書計画

ゆるキャラで謎解き！④⑤地方の特色をつかもう

※各班のキャラクターの要素を視点ごとに分類したもの

1班	2班	3班	4班	5班
6班	7班	8班	9班	

中部地方は
(産業)が盛んな県が多い

メガネフレームの出荷額
 ピアノの出荷額シェア率

これから学習する中部地方は
...
なぜ、個性豊かな産業が各地で発展しているのだろうか

6 思考の構造図

【事実的認識の第3段階】

産業の発展には、土壌や気候などの自然環境や都市と結びつく交通網、歴史的な背景、時代や生活様式の変化に対応するために人々の絶え間ない努力や工夫が不可欠であり、地域の独自性が見られる。



【事実的認識の第1段階・第2段階】

- A 輸送用機械産業を中心とした日本最大の工業生産額の中京工業地帯と東海工業地域が形成されている。
- a 愛知県を中心として繊維産業が盛んになった。
 - b 豊田自動織機製作所の設立と自動織機の技術が自動車部門への発展した
 - c 水運を利用し木材の集散地だった名古屋で航空機産業が盛んになった。
 - d 戦後の物不足の時期にミシン産業や原料が確保できたことで陶磁器の生産が盛んになった。
 - e 東駿河湾地区は工業整備特別地域に指定され食品加工、製紙業、楽器、輸送用機械などそれぞれの都市で工業が盛んになっている。
- B 北陸地方は雪の降り積もる農閑期の余剰労働力と中央高地から流れる河川から得られる豊富な水を背景に様々な産業が発展した。
- a 規模の大きな能登半島によって富山湾が形成され、豊富な水産資源が得られることを背景北陸地方は日本有数の穀倉地帯となっている。米作りが醸造業や製菓分野へと発展した。
 - b 新潟県燕三条では江戸時時代の和釘の生産技術を活用して金属加工や洋食器の生産に盛んになった。
 - c 石川県は加賀藩の元で栄えた金沢文化を背景に金箔や漆器などの伝統工芸品の生産が盛んになった。建設機械のコマツの発祥地であり、企業城下町が形成される。
 - d 福井県では軽工業が発展しており、メガネフレームの国内シェア率は9割を超える。海外の安価な製品に対抗するために自社ブランドや販売業にも注力している。
- C 中央高地は
- a 山岳地帯から流れる河川の働きで形成される扇状地を利用した果樹栽培が盛んになっている。
 - b 冷涼な気候を生かした高原野菜の栽培と大消費地への輸送演芸農業が盛んになっている。
 - c 自然や史跡などの観光資源が豊富で東京、大阪の二つの都市圏から多くの観光入込客数が多い。
 - d 長野県の岡谷・諏訪地域は繊維業か気温や湿度などの条件の良さと豊富な水を活用して精密機械の製造地へと発展した。
- D 三大都市圏を結ぶ東海道を並行するように整えられた鉄道や高速道路などの交通の発達が発展が農作物の輸送や製品の輸出の発展へとつながっている。
- a 一極集中ではなく拠点性の高い都市が分散して位置し、関東や近畿に比べて通勤環境や居住環境にゆとりがある。
 - b 太平洋側の地域では東西方向の貨物流動量が多く、中部地方以外の地域ともつながりが強い。



【事実的認識の第1段階・第2段階】

日本の中央に位置した地方で様々な自然環境が見られる。

- a 中央部に日本アルプスの飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈が位置している。
- b 3000m 級の山々から県を跨ぐ希望の大きな河川が流れている。
- c 標高の高い中央の山々によって3つの地方に分けられている（北陸地方・中央高地・東海地方）
- d 冬季多雪の日本海側の気候、冷涼な中央高地の気候、夏季多雨の太平洋側の気候が見られる。
- e 近畿地方と関東地方とを繋ぐ地方
- f 規模の大きい河川によって濃尾平野、砺波平野などの平野が形成され大小の都市が形成された。